夜間学校だより

釜ヶ崎夜間学校
西成区萩ノ茶屋二丁目一八
喜望の家気付
発行 でんわ六四七一三九四一六
(木よう日 7じ～9じ夜)

'82年度
第2期 7月～9月
テーマ『仲間意識』

7月は
仕事仲間について
考える

現場で仲間意識を感じるのは どんな時か？……

今夜7じより喜望の家集会室にて

人間が他の動物と違うのは生きて行く為に必要なものを労働によって得なければならないことだと言われる。しかも一人だけでは必要なものを十分に生産することができないことから、必然的に労働は集団での労働になる。

これが"労働の社会化"と言われるものであり、別の面からは、"人間は、社会的存在である"と言われるものだ。

「仕事は一人ぽっちではできない」
要するに人間は一人ぽっちでは生きて行けないということだ。

労働の社会化"と言うことのうちには、直接一緒に仕事はしていなくても 誰かが作った道具を使っていると言うように、広い意味があるが、わしらのようにどもすれば危険な日雇にとっては、もう少しお互に相手を思いやることができれば、しんどい仕事も少しは楽になると言うようなことはないだろうか。

仕事がまったくなく、仕事に行こうと思えば他人をケ落しでもしないと行けないような状況のなかで"仕事仲間"の話しもないもんだ、と言う反論もあるだろう。

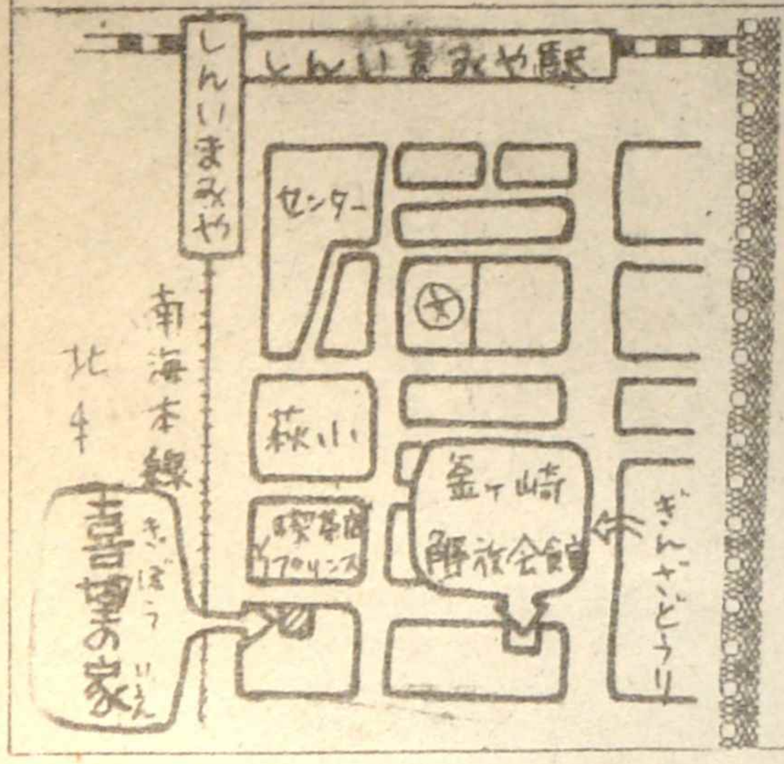
しかし、現場でのモヤモヤしたまずい関係を釜にもって帰って酒でまぎらすよりも、どうせなら"仕事仲間"としてのいい関係を作ることはできないだろうか。そう言う関係が、狭い一つの現場や飯場だけに限らず釜の日雇労働者としての仲間意識にまで広がったときはじめて今のようなしんどい時期に行政から仕事を引き出すような斗いもやりきれるのではないだろうか。

と言ったようなわけで、今月は"仕事仲間"について考えて見たいと思っています。

是非多くの仲間が参加して下さい。

原稿ボ集

夜間学校文集の発行を計画中。詩、俳句、その他何でも。



仕事仲間について考える

仲間意識とは…

一人で闘うことには限界があり、大きな力は生まれにくい。仕事の少ない今こそ、「集団」あるいは「組合」をつくり、力をつけていくことが必要です。

第2期には、『仲間意識』をテーマとし、われわれの目指すものを獲得するために力を合わせることの大切さを各々の中に根づかせたいと思っています。

前回は、まず序論の段階であり、『仕事仲間』について思っていることを出し合いました。

- 信頼できる仲間をつくりにくい。掴得が先にでる。
- 士方は仕事では忍耐強い。会社ほど、一緒に仕事をしている者を悪く言わない。
- 仕事がないとつき合いが違う。
- 鶏の処理場に行ったが、自分の内面までさらけ出すのは難しい。日雇いの方が出せるのではないか、と思った。
- 知っている人に聞いたのだが、鉄筋工が技術修得の為に2、3人で本を読み合っている、とのことだ。
- 同じような仕事でないと仲間はつくりにくい。
- 鉄筋工、夜間学校、渡世など機能に応じた仲間がある。

それでは、どういう時に仲間を意識するのであろうか？

- 金がない時やつらい時、
- 自分のやろうとしていることをわかってくれる人に会った時、
- 一緒に酒を飲んだり仕事をしている時、
- 一緒に何回も飯場に行った時
- 仕事の機能を媒介にして、仲間意識が生まれる。
- 相互に利用価値がないと仲間意識は深まらない。

「知り合い」と「仲間」は、どう違うのかな？

- 銭がある、なしでつき合った
- 離れたりするのが知り合い。
- 仕事から離れた時はつき合いになる。
- 仕事を離れた所での心の触れ合いもある。
- 仲間というのは、趣味、故郷など呼応するものがあるからできあがる。

「仲間」ができる過程には、まず同じ現場で働くということがあり、その中には、同じ飯場、同じ現場で仕事をした、同じ人夫出しに行ったなどが考えられる。出会いは、仕事に限らず、飲みや、ドヤ、センター、認定の番号が近い、などもある。主に、同じ現場で仕事をしたことにより、仲間意識がつちかわれ、釜に帰ってきてからもお互いの利害関係がつづく。共通の利害関係の中には、精神的なものと物質的なものがあるように思う。

関係が深まる要因としては、一言で言うと、『ウマが合う』ということ。反対に仲間でなくなるときというのは、

- 自分の利益だけを考える。
- 親方に陰口をいうなど人を落とし入れる。
- 仲間の片方が仲間でなくなった時、例えば、同じ現場で働いていた時は対等な関係で働いていたが、釜に帰ってきたら、片方が親分顔をするなど。

釜では、『仲間』というと、仕事を媒介としている。現場で一緒に働くことによって生まれる『仲間意識』が、釜に帰ってきてからも持ち続けられるかどうか……。

〔出会い〕
仲間一 現場 飯場
飲み屋
ドヤ・センター
認定の番号が近い
現場 ← 同じ現場で仕事をした / 同じ人夫出しに行く → 共通の利害関係
物質、精神